

講演 7

セルフメディケーションの推進のための薬局の機能

長谷川 洋一

セルフメディケーションの推進のための 薬局の機能

名城大学薬学部
長谷川洋一

本日の内容

1. 昨年度までの経過について
2. 薬局における健康情報提供状況等に関する実態調査について
3. 健康情報拠点薬局に求められる機能について

本日の内容

1. 昨年度までの経過について
2. 薬局における健康情報提供状況等に関する実態調査について
3. 健康情報拠点薬局に求められる機能について

薬剤師が担うチーム医療と地域医療の調査とアウトカムの評価研究 在宅医療・かかりつけ薬局推進班の概要

平成25年度厚生労働科学研究費補助金
医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス研究事業

研究代表者: 東京医科歯科大学大学院歯学総合研究科 安原真人
在宅医療・かかりつけ薬局推進班分担研究者:

北里大学 薬学部 吉山友二(初年度)
名城大学 薬学部 長谷川洋一(2年度)

研究目的: 地域において在宅医療を提供する薬局薬剤師が、地域医療・地域保健に積極的に関与するための基準を策定することで、薬局が在宅医療を推進しつつ、本来のかかりつけ薬局機能を充分发挥できるようにすることである。

初年度の事業: 「かかりつけ薬局機能をもった在宅医療提供薬局」を推進するための新たな基準を作成し、その妥当性を評価することとし、平成26年1月に「薬局の求められる機能とあるべき姿」の報告書を公表した。

2年度の事業: 「薬局の求められる機能とあるべき姿」の報告書に基づき、在宅医療を含めた地域包括ケアシステムの中でセルフメディケーションの推進に資する薬局のあり方について、調査検討する。

「薬局の求められる機能とあるべき姿」の公表について

- 近年の社会情勢の変化を踏まえた望ましい形のかかりつけ薬局を推進するための指針として、厚生労働科学研究事業「こころ」(薬局の求められる機能とあるべき姿)がとりまとめられた(平成26年1月 日本医療薬学会発表)。

※「薬剤師が担うチーム医療と地域医療の調査とアウトカムの評価研究」(主任研究者: 安原真人、東京医科歯科大学大学院歯学総合研究科教授、一般社団法人日本医療薬学会)

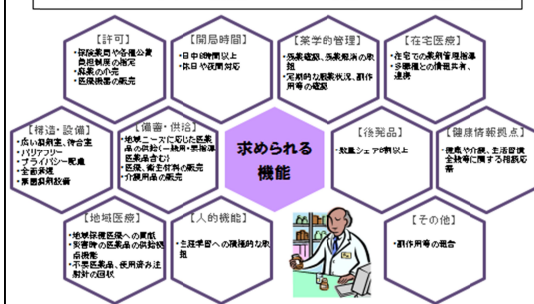
主な内容

【薬局・薬剤師に求められる機能に関する基本的な考え方】

1. 最適な薬物療法を提供する医療の担い手としての役割が期待
2. 医療の質の確保・向上や医療安全の確保の観点から、医療機関等と連携してチーム医療を積極的に取り組むことが求められる
3. 在宅医療において、地域における医薬品等の供給体制や適切な臨床支援を行う体制の確保・充実に取り組むべき
4. 医薬品や医療・衛生材料等の提供拠点としての役割に留まらず、後援医薬品の使用促進や処方薬解消といった医療の効率化について、より積極的な関与も求められる
5. セルフメディケーションの推進のために、地域に密着した健康情報の拠点として積極的な役割を担うべき
6. 患者の治療歴のみならず、生活習慣も踏まえた全般的な薬学的管理に責任を持つべき
→ 基本的な考え方の下、薬局が備えるべき基本的体制及び薬学的管理の在り方について、確保すべき又は取り組むべき項目を示している。

※ 一般社団法人日本医療薬学会「薬局の求められる機能とあるべき姿」の公表について
<http://www.jpshcs.jp/cont/14/0107-1.html>

「薬局の求められる機能とあるべき姿」における主な機能



「薬局の求められる機能とあるべき姿」の公表について(平成26年2月22日発表資料)22頁(1/2)

本日の内容

1. 昨年度までの経過について
2. 薬局における健康情報提供状況等に関する実態調査について
3. 健康情報拠点薬局に求められる機能について

7

薬剤師かかりチーム医療と地域医療の調査とアウトカムの評価研究 在宅医療・かかりつけ薬局推進班の概要

平成25年度厚生労働科学研究費補助金
医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス研究事業

研究代表者：東京医科歯科大学大学院歯学総合研究科 安原真人
在宅医療・かかりつけ薬局推進班分担研究者：

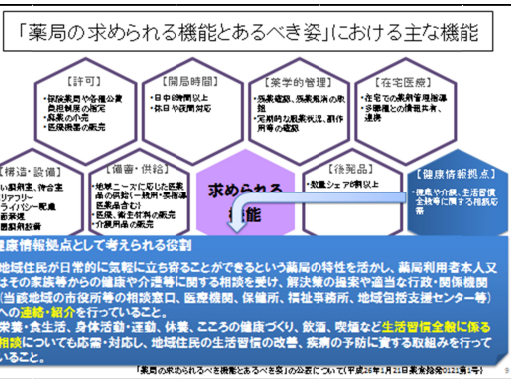
北里大学 薬学部 吉山友二(初年度)
名城大学 薬学部 長谷川洋一(2年度)

研究目的：地域において在宅医療を提供する薬局薬剤師が、地域医療・地域保健に積極的に関与するための基準を策定することで、薬局が在宅医療を推進しつつ、本来のかかりつけ薬局機能を十分発揮できるようにすることである。

初年度の事業：「かかりつけ薬局機能をもった在宅医療提供薬局」を推進するための新たな基準を作成し、その妥当性を評価することとし、平成26年1月に「薬局の求められる機能とあるべき姿」の報告書を公表した。

2年度の事業：「薬局の求められる機能とあるべき姿」の報告書に基づき、在宅医療を含めた地域包括ケアシステムの中でセルフメディケーションの推進に資する薬局のあり方について、調査検討する。

8



9

薬局における健康情報提供状況等に関する実態調査

○ 本来あるべき「かかりつけ薬局機能をもった健康情報拠点薬局」を推進するために、薬局における健康情報等の提供状況や、要指導医薬品、一般用医薬品等の取扱い状況等を把握することを目的として調査(平成26年度調査)を実施した。

概要

○ 調査対象：公益社団法人 日本薬剤師会 セルフメディケーション・サポート薬局®(669薬局)及び保険調剤・サポート薬局®(1,023薬局)の計1,982薬局を母集団として、計1,000薬局(セルフメディケーション・サポート薬局500薬局、保険薬局500薬局)を無作為抽出して調査対象とした。

○ 調査方法：対象薬局の調剤者又は管理薬剤師による自記式アンケート調査
郵送発送・FAX発送

○ 調査基準日：平成26年7月1日(火)

○ 実施時期：平成26年7月31日(木)～9月3日(水)

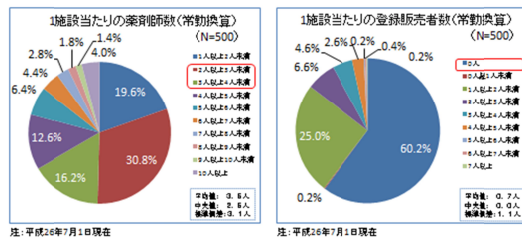
回収状況

セルフメディケーションサポート薬局 回収率44.6%(223/500)
保険調剤サポート薬局 回収率56.4%(277/500)
合計 回収率50.0%(500/1,000)

※ 保険調剤・サポート薬局、セルフメディケーションサポート薬局は、それぞれ「保険調剤」「セルフメディケーション」に関する日本薬剤師会の調査に協力する薬局として調査対象薬局から抽出された薬局。

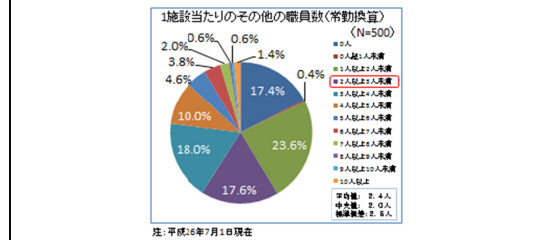
10

調査結果の概要(従業者数-その1-)

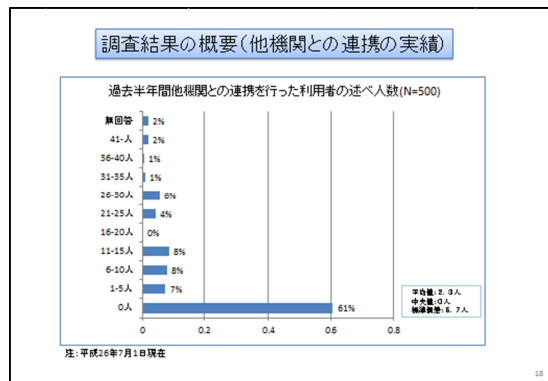
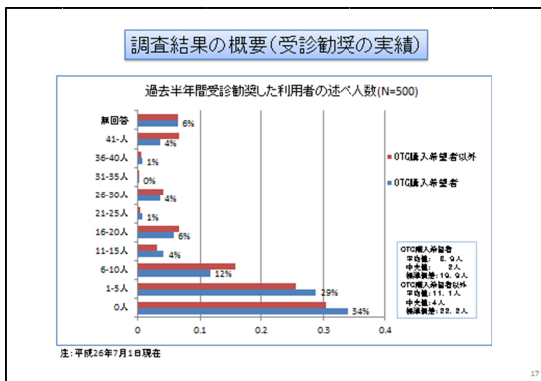
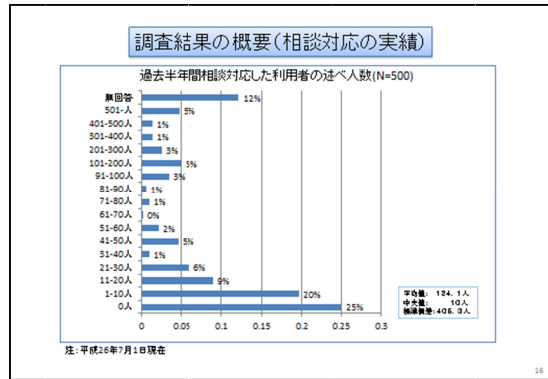
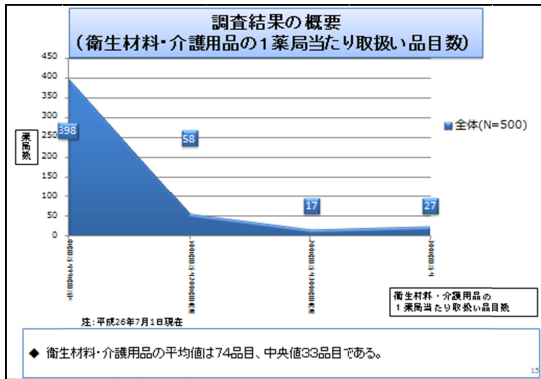
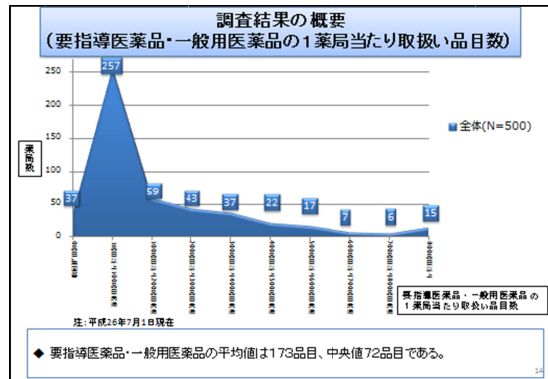
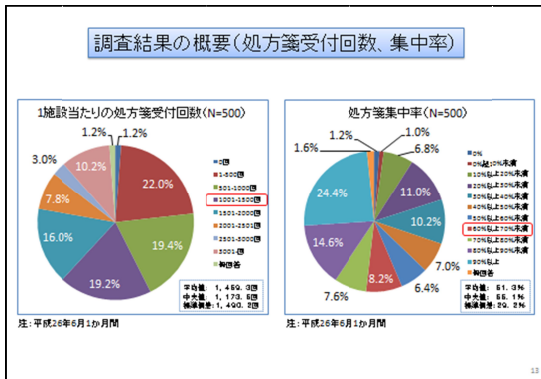


11

調査結果の概要(従業者数-その2-)



12



本日の内容

1. 昨年度までの経過について
2. 薬局における健康情報提供状況等に関する実態調査について
3. 健康情報拠点薬局に求められる機能について

18

健康情報拠点薬局の位置付け、考え方(案)

- 「健康情報拠点薬局」を考えるにあたっては、その位置付けや考え方を明確にする必要がある。
 - その位置付けや考え方には、「薬局の現状の問題点」や「日本再興戦略」における記載が参考になるのではないか。
- 【薬局の現状の問題点】
- ・ 一般用医薬品を取り扱わない薬局が多数
 - ・ 薬局の高齢者対応方針に差→個別薬局が主体
 - ・ 地域の健康づくりの拠点となるような取組が不十分
 - ・ 医薬分業についての十分な理解が得られていない
- 【日本再興戦略】(平成25年6月14日閣議決定)【抜粋】
- ・ 予防・健康管理の推進に関する新たな仕組みづくり
 - ・ 「薬局を地域に密着した健康情報の拠点として、一般用医薬品等の適正な使用に関する助言や健康に関する相談、情報提供を行う」等、セルフメディケーションの推進のために薬局・薬剤師の活用を促進する。」



- ・ 調剤による薬剤の提供はもとより、要指導医薬品、一般用医薬品等の適正な使用に関する助言や健康に関する相談、情報提供を積極的に行う。
- ・ かかりつけ医を中心とした多職種連携の中で地域に密着した健康情報の拠点としての機能を果たす。
- ・ 国民の病気の予防や健康づくりに貢献している。

20

「薬局の求められる機能とあるべき姿」における主な機能



21

健康情報拠点薬局に求められる主な機能 (案)



22